

読む力を生かして言語活用力を高める学習指導の工夫

—説明的な文章の学習を通して—

豊見城市立豊崎小学校教諭 新垣江利子

I テーマ設定の理由

国語科に求められること

小学校学習指導要領における国語科の目標の一つに「国語を適切に表現し、正確に理解する能力の育成」がある。すべての授業が言語によって進められている以上、その学習の基本となる国語の能力を身に付けることは重要なことである。国語の能力の根幹をなすのが言語による表現力や理解力で、論理的な思考力や豊かな想像力は、言語を手がかりとしながら身に付けていくものである。

2007年より実施された全国学力・学習状況調査によって、沖縄県の子どもの学力低下が浮き彫りにされた。国語・算数ともに平均正答率は全国を下回っており、特に「習得」「活用」の正答率が共に低く、「読解力」等の課題が見られる。また、本県でも、県学力到達度調査も実施され、本校でも「習得」「活用」の正答率が低く、課題が見られた。

小学校学習指導要領では、「生きる力」をはぐくむことを目指し、言語活動を充実させることにより、児童の思考力・判断力・表現力等を高めようとしている。学力の基本となる国語科においては、今、まさに読解力の育成が求められているのである。

これまでの実践より

本学級の児童の実態として、10月に行った国語の意識アンケートの結果から80%の児童が国語の学習は好きと答えている。国語の学習の中でも読書や音読が好きだと答えた児童も80%いた。

しかし、図1の学力到達度調査の結果から「読むこと」については、他の領域に比べ落ち込みが見られた。

これまでの授業実践を振り返ってみると、知識や情報を読み取らせたり、内容理解に重点を置いていたように思う。言葉に着目させすぎて、断片的な読み取りになってしまい、文章全体の順序や内容全体を読み取らせることが十分でなかった。また、低学年の説明文で重要な働きをする、順序を表す言葉や主語や述語の関係の押さえが弱かったことで、その後の表現活動や情報を活用することに生かされていなかったと考える。

本研究において

本研究では、2年生の説明的な文章において、読む力をつけるために読み取り方の学習をし、さらに読む力を生かして言語活用力を高めるために、学習指導の工夫をしていきたい。

読むことでは、大事な言葉と説明の順に注意して、教材文の読み取り方を学習する。まず、主語と述語の関係をしっかり押さえ、本文と写真と挿絵を結びつけて文意を読み取らせていく。次に、身に付いた読む力を生かして、様々な本や資料からいろんな情報を収集して活用できる力へと繋げていきたい。

以上のような研究を通し、読む力を生かして言語活用力を高めることができると考え、本テーマを設定した。

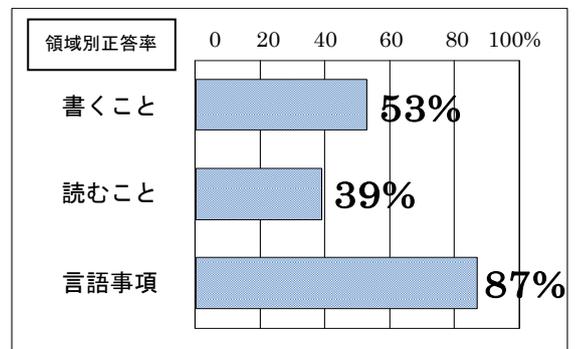


図1 学力到達度調査(本学級11月実施)

II 研究仮説と検証方法

1 研究仮説

低学年の国語科の説明的な文章の学習において、次のような指導の工夫を行えば、読む力を生かした言語活用力が高まるであろう。

- (1) 大事な言葉と説明の順に注意して教材文を読み、読み取り方を学習することで、読みの力を育てる。
- (2) 興味をもったことを読み取り方の学習を生かして、様々な本や資料で調べることで、情報を収集したり活用したりする力を育てる。

2 検証方法

検証授業の対象： 豊崎小学校2年3組 26人			
	検証場面	検証の観点	主な検証方法
1 授業実践から	順序に気をつけて読み、書かれている内容を正しく読み取っている	(1) 主語と述語の関係をしっかり押さえ、本文と写真と絵を結びつけて、正しく文意を読みとることができたか。	・授業観察 ・ノート点検 ・ワークシートへの記述 ・児童の発表や感想
	知りたいことに関係のある大事な言葉を見つけてながら読んでいる	(2) 興味を持ったことを読み取り方の学習を生かして、様々な本や資料で調べ、分かったことをクイズにすることができたか。	・授業観察 ・ワークシートへの記述 ・児童の発表や感想 ・動物のひみつクイズ
2 授業実践前後の調査	・国語の意識アンケート ・力だめしテスト (自作)	事前(10月) 事後(1月) 事前テスト(11月) 事後テスト(1月)	・授業の事前事後に同一テストを実施
3 まとめ	低学年国語科の説明的な文章の学習において、読み取る学習を生かして、本や資料から知りたいことを見つけられる学習指導の工夫をしたことは、言語活用力を高めることに有効であったか。		・上の観点の(1)(2)の結果 ・事前事後テスト

III 研究内容

1 「読む力」について

(1) 「読む力」とは

「読む」という言葉には、「声に出して言う」とことと「意味を理解する」ということが含まれている。「読む力」「読みの力」といえば、両者の意味合いをもち、「読解力」「読み取る力」といえば、後者の意味合いが強くなる。

「読む力」とは、次の3つに分類できる。

- 叙述に即して書かれている内容や説明・表現方法を読み取る力 (確認読み)
- 読み取った内容や説明・表現方法を自分なりに解釈する力 (解釈読み)
- 読み取った内容や説明・表現方法を自分なりに批評する力 (批評読み)

これらの3つの力を獲得させ、「習得」と「活用」していく授業を構成していくことでさらに「読む力」を高めることができる。

「読む力」は、自分自身でしっかり文章を読む学習をするときに伸びると考える。学習課題を読みこなし、学習方法を明確にすることで児童の学習能力が伸びていくのである。

学習を進めていくにあたっては、次のことを習得させ、それを活用して論理的に読む指導の工夫が必要であると考えます。

- 段落や要点などの「学習用語」
- 用語の意味を明確にした上で、児童が叙述に即して読み取るための様々な「方法」の取得
- 文章には規則性があることの「原理・原則」の把握
 - ・文学作品「設定～展開～山場～結末」という物語の構造
 - ・説明文「序論・本論・結論」という基本構成や「問いと答え」の関係把握

(2) 低学年における小学校学習指導要領の「読むこと」の指導

国語科の目標を受けて示された低学年の「読むこと」の内容は、表1の通りである。傍線部の事項を取り入れながら読み取り方の学習を進めていき、単元全体を通して読む力を身に付けていきたいと考える。

表1 低学年における小学校学習指導要領の「読むこと」の指導事項

	第1学年及び第2学年
目 標	(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。
	(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。
音 読	<u>ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。</u>
説明的な文章の解釈	<u>イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。</u>
文学的な文章の解釈	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
自分の考えの形成 および交流	エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
目的に応じた読書	<u>カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。</u>
	(2) (1)に示す事項については、例えば次のような言語事項を通して指導するものとする。
言語活動例	<u>ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。</u> イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 <u>ウ 事物の仕組みなどについて説明した文や文章を読むこと。</u> <u>エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。</u> <u>オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。</u>

(3) 低学年における言葉の特徴や決まりに関する事項

言葉の特徴やきまりに関する事項は、表2の通りである。傍線部の事項を指導過程で押さえながら、読み取りの学習を進めていきたいと考える。

表2 低学年における言葉の特徴や決まりに関する事項

	第1学年及び第2学年
言葉の働きや特徴 に関する事項	<u>(ア) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</u> (イ) 音節と文字との関係やアクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。 <u>(ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。</u>
表記に関する事項	<u>(エ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。</u> <u>(オ) 句読点の打ち方や、かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。</u>
文及び文章の構成 に関する事項	<u>(カ) 文の中における主語と述語の関係に注意すること。</u>
言葉遣いに関する事項	(キ) 敬体で書かれた文章に慣れること。

2 説明的な文章の学習について

(1) 説明的な文章とは

ものごとの道理や事実、事件などを述べた文章を説明文と呼ぶが、説明的な文章と同意義に使われることが多い。普通、説明的な文章は説明文よりも範囲が広いと捉えられる。書き手の立場を極力押さえた科学的解説文から、書き手の立場を明確に示す新聞の社説までを含み、その間に様々な形態の文章が入る。説明書、案内文、解説文、観察文、記録文、報告文、広告文、感想文、論説文（意見文）などがある。

(2) 説明的な文章を読むねらい

① 情報を正確に捉え、把握する

- ア 筆者の書いた内容を読んで、情報を正確に理解する。
- イ 叙述内容を読み、題名に関する様々な情報を関連づけて理解する。
- ウ 事象や考え・意図・感想等の関係を押さえ、それぞれを区別して読み取り、自分の考えを明確にしながらか読む。

② 叙述内容を論理的に読み取る

- ア 筆者の書いた文章の構成や論理の展開に沿って、内容を読み取る。
- イ 段落のもつ意味を理解し、段落ごとの要点をまとめたり、文章全体の要旨を的確に捉える。
- ウ 文章の構成や論理の展開を把握し、理解する。
- エ 言葉のきまりを身に付けたり、論理的な表現方法を理解したりする。

③ 必要な情報を収集する能力の育成に資する。

- ア 課題解決のために必要な情報を収集し、情報を処理するための読み方ができる。

④ 収集した情報をもとにして、自らの考えをもつ

- ア 収集した情報をもとに、経験したことを通し、よく考え判断し、他者と考えを交流しながら、自分の考えを明確にもつ。

(3) 説明的な文章の学習指導の工夫

① 習得させたい読みの方法・技能

新しい単元に入った時、「指導すべきこと、子どもに身に付けさせる力とは何か」と考えることがあるが、白石範孝(2010年)は、「基礎的・基本的な読みの方法・技能はつまり言語技術である。活用力を支える土台は、言語技術の獲得であり、これを習得させる授業である」と述べている。説明的な文章を読み進めるにあたって低学年では、叙述に従って順序を表す言葉や主語や述語の関係を押さえていくことが大切である。表3、表4のことを押さえた学習指導を取り入れていくことで、さらに効果的な読みができるようになる。

表3 低学年における習得させたい読みの方法・技能

ものの味方・考え方	読みの方法・技法	学習用語
比較 類似性＝類比 相違性＝相違 順序 過程・展開 ・変化・発展 理由 理由・原因・根拠	◆題名を手がかりに書かれている事柄をつかむことができる。	・主語 ・述後 ・問い ・答え ・文 ・文章 ・段落 ・説明文
	◆何がどんな順序で書かれているのか、内容の大体をつかむことができる。	
	◆絵や写真などを本文と結びつけて、内容を捉えることができる。	
	◆内容の大体を順序よく説明することができる。	
	◆意味のまとまりを考えながらか読むことができる。	
	◆文章の内容と自分の経験を結びつけて、自分の考えをまとめることができる。	
	◆問いの文と答えの文を見つけ、比べながらか読むことができる。	
◆主語と述語の関係に注意して読むことができる。		

表4 低学年の読みの学習活動例

活動	内容
視写	・目的によって全体視写と部分視写をすることができ、主述の対応、繰り返し出てくる語句、文末表現の違い等様々なことに気づかせてくれることにより、学習の動機づけになる。
自分の考えを書く ノートに 書き込む	・初発の感想を書かせたり、学習後の感想を書かせることで、読みの深まり評価することができる。 ・自作の単元ノートは、児童が学習しようとする事、学習したこと記録すると共にそれを理解し、考えるためのものである。ノートは学習過程の記録であり、ノートが学習のあしあととなる。ノート作業は、学び方の能力を高める上でも、主体的学習を進める上でも欠かすことはできない。
サイドライン	・児童が文章を読みながら、学習課題と関係のある語句や「ここが大事・必要である」と思うところにサイドライン（傍線）を引くことである。この目的は、文章に書かれていることを読み取る能力を育てるためであり、その語句や文を注目することで、読みを深めていくことができる。
書き込み 書き抜き	・理解過程において行間やその他の余白に、言葉や記号を理解を助けるために書き込むことである。子どもの主体的な読み及び読みの個別化を重視しながら、文章内容を深く正確に読みとることをねらいとしている。
ワークシート	・ワークシートを活用して、大事な言葉を書き込ませたり表にまとめたりすることで文章の内容を正確に読み取ることができる。
挿絵	・文章の中の間に入れてある絵やカット写真のことで、情報を共有したり、体験や情報を補ったり、説明の順序や筋の流れを整理し、読みを深めるために役立つ。
動作化	・物語などを読んで、登場人物の気持ちや考えをより深く理解させるために実際に動作で表現。説明文でも、植物の成長の様子や動物の部分の動きを動作化できる。
絵・図を描く カード	・読み取ったことを絵や図に書かせることで、楽しく内容を読み取ることができる。 ・文章の中で大切な文や語をカードに抜き出し、文相互の関係や要点などについて、その理解を容易にすることができる。（単語中心・カード操作・カード作り）
自己評価	・学習後の自分の学びの様子を観点ごとに振りかえることによって、学びを確かめることができる。

② 単元ノートやワークシートで「学習のあしあと」を残す

普段から学習ノートは使用しているが、手元や周りに「学習のあしあと」が残されることによって、自然に学習の思い起こしや今後の授業への発展性も身に付いてくると考える。白石(2010年)は「単元の最初からどのような指導が積み重ねられているか、子ども達のノートを見れば一目瞭然である。・・・単発のワークシートはできるだけひかえ、単元全時間分をきちんとノートに貼り付けたり、ワークシート用のファイルを手元に置かせて綴る、ワークシートを重ねて貼り継いで最後に表紙をつけてブック化する」と述べている。

前時までの学習で使用された拡大コピーの本文やキーワードを書き込んだカード等、「習得」と「活用」の関連を図る学習を展開するのであれば、「習得」するために使われた様々な学習材が子どもの目にふれるように掲示する。掲示することで、前時までの学習思い起こしが行われ、何を習得したかを振り返ることができる。学習のあしあとと習得と活用の関連を図2に示す。

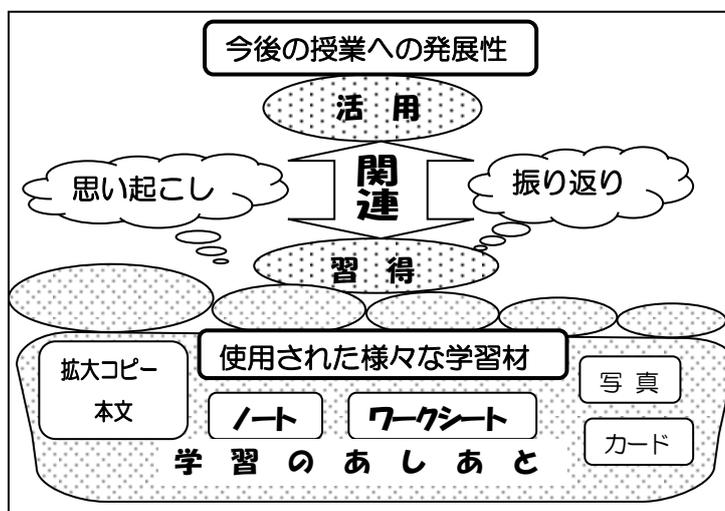


図2 学習のあしあとと習得・活用の関連

3 言語活用力を高める説明文の指導について

(1) 言語活用力を高める必要性

学習指導要領では、「生きる力という理念の共有」「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学習意欲の向上や学習習慣の確立」「豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実」などが求められている。

国語科においては、特に「実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本となる国語の能力を身に付けること」と「我が国の言語文化を継承・発展させる態度を育てること」に重点が置かれている。また、その他には、「伝え合う言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し、表現する能力」「互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力」「我が国の言語文化にふれて感性や情緒を育む」なども重視されている。

つまり、今後の国語科学習指導を行う際に重要なことは、基礎的・基本的な内容を確実に習得させるとともに、獲得した力を活用しながら思考力・判断力・表現力等を高めていくことである。実生活や他教科等の学習に応用・波及・発展していく言語活用力の育成が重要視されているといってもよいであろう。

実生活において獲得した言語能力を、活用・発揮する場面は多い。国語科学習で身に付けた知識技能を活用することで、言語活用力を発揮し、地域社会への一員として役割や社会の中で生きる人間としての資質・能力構成が図れるのである(図3)

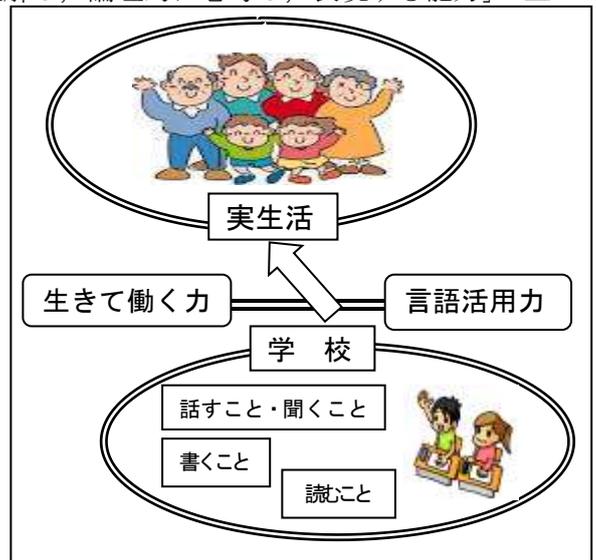


図3 言語活用力の位置づけ

(2) 言語活用力を高めるための説明文の段階的学習

言語活用力を高めるためには、視点をふまえた授業展開を計画しなければならない。瀬川榮志(2010年)は、「言語活用力を高めるためには基礎的技能獲得の段階、基本的能力獲得段階、統合発信力獲得の段階に沿って、次段階での指導内容を視野に入れた指導が重要になる」と述べている。それぞれの段階を具体的に示していく。

① 基礎的技能の段階

基礎的技能は、表現力、理解力、あるいは、「話す・聞く、書く、読む」活動や基本的能力、統合発信能力を支える技能である。この技能が定着しないと、国語科学習はもちろん、他教科の学習も円滑に進めることができないということになる。学習指導要領の以下の事項が、基礎的技能の系統である。

「各学年における言葉の特徴やきまりに関する事項やきまりに関する事項」
言葉の働きや特徴・表記・語句・文及び文章の構成・言葉遣い・表現の工夫

② 基本的能力の段階

言語活動は、基礎的技能を支えに対話・説明・討論・報告、あるいは手紙を書く、説明文を書く・読む、報告文や記録文を書く・読む等の活動を展開する。説明するとき時間的な順序や事柄の順序を明確にしたものでなければ、聞き手は話の内容を理解できないということになる。また、語彙が貧弱であれば、思いを的確に伝える文章を書くことはできないということになる。

基本的能力は、言語の基礎的技能を下位技能として効果的に駆使しながら順序・要点・段落中心点・要約・目的・要旨・主題把握力を育成しなければならない。基本的能力は、以下の事項である。

音読・効果的な読み方・説明文の解釈・考えの形成及び交流・目的応じた読書

③ 統合発信力の段階

統合発信力とは、基礎的技能と基本的能力を波及・応用する力である。言い換えると、実生活に生きて働く力のことである。また、統合発信力は、「話す・聞く、書く、読む」といったそれぞれの活動と言語の「表現」「理解」「基礎的技能」等を発揮するとともに、人間としてどう生きるかと言った生き方の追求でもある。充実した人生にするために価値のある情報を伝え合い、望ましい人間社会を創造していく人間関係力を深める力である。統合発信力の系統を表5に示す。

表5 「統合発信力」の系統表（低学年）

情報収集能力	○見聞したり体験したりしたことを思い出し、記録することができる。 ○自分に必要な情報を幅広く探し、大まかに整理することができる。 ○五感を用いて、興味関心のあることを集めることができる。
情報選材能力	○集めた情報が必要かどうか考え、順序立てて選ぶことができる。 ○五感を用いて、情報の類似や相違に気付くことができる。 ○必要のないサイトにはアクセスしない。
情報統合能力	○集めた情報に自分の考えを付け加えることができる。 ○いくつかの情報を結びつけて考え、自分なりの考えを生み出すことができる。 ○全体を見通し、自分の考えがまとめられているかを考えることができる。
情報分析・整合能力	○一つの情報をいろいろな観点から調べることができる。 ○大事だと思ふ情報の概略を自分なりにまとめることができる。 ○調べたことをもとに、簡単な絵やグラフなどに表すことができる。 ○まとめた内容を読み返し、不要なものや過ちに気付くことができる。 ○集めた情報の簡単な分類や仕分けをし、整理することができる。
情報交信能力	○声の大きさ、姿勢、早さに注意し、はっきりした発音等を考えて話し合うことができる。 ○質問や応答を通して、グループごとに答えをまとめて話し合うことができる。 ○友達の話の大体を理解し、自分なりの考えを言葉遣いに気をつけて話し合うことができる。 ○メディアから言語情報を選んで話し合ったり、話題に沿った簡単な情報を発信したりできる。

瀬川榮志「言語活用力を高める説明文の指導」P44, 45より一部抜粋

(3) 説明文における読む力を生かした言語活用力の高まり

これまで述べてきたことをもとに、説明文における読む力を生かした言語活用力の高まりに関する構想図を図4のように作成した。

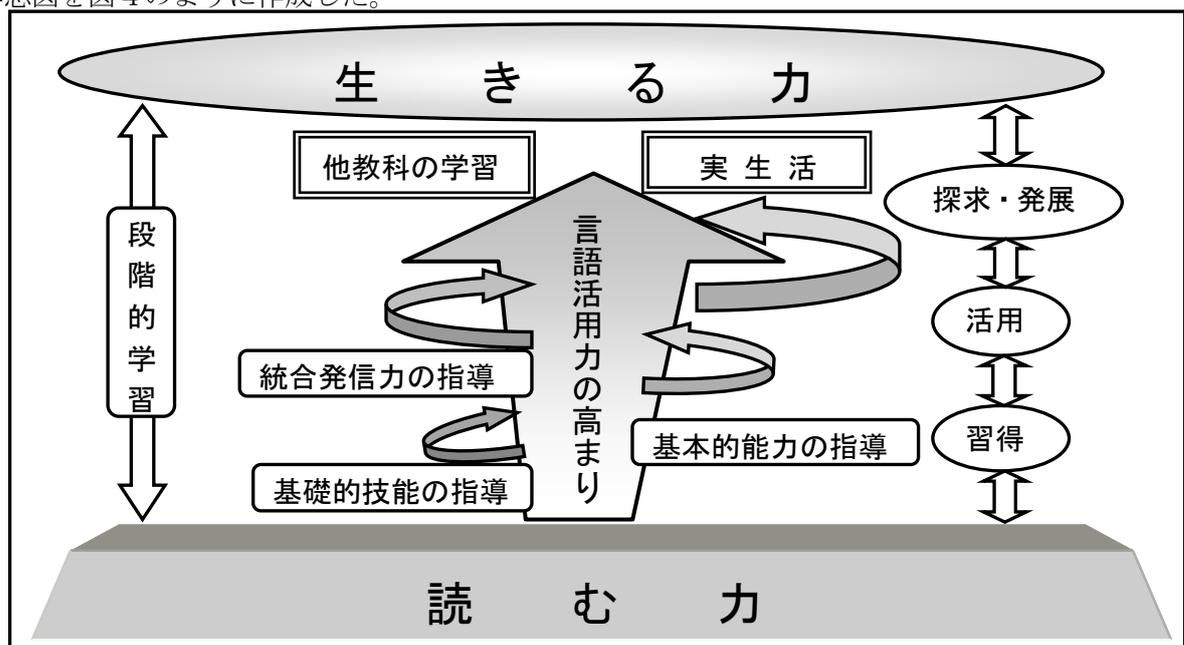


図4 説明文における読む力を生かした言語活用力の高まり

IV 検証授業

1 単元名 どうぶつのひみつをみんなでさぐる

2 教材名 「ビーバーの大工事」

3 単元設定の理由

(1) 教材観（省略）

(2) 児童観

本学級において、説明的な文章の教材では、すらすら読めるように音読活動をさせたり、視写で言葉や文章に慣れさせたりして、言葉の意味や繰り返し出てくる大事な言葉についても、児童が疑問をもったり気づくことができるように取り組んできた。挿絵や写真にも興味を示し、文章を読むことでは、書かれていないことも読み取ろうとする児童も増えてきている。全員で読み進めると、大体的内容は理解することができ、読む力も身につけてきたように思うが、読んだことを相手に伝えるための方法として書く作業をしたときなど、読んで得た情報を筋道を立ててなかなか書き出せない児童も見られる。教師の指導の工夫が必要であると感じている。

(3) 指導観

本教材は、ビーバーの巣作りを例として挙げ、ビーバーの体の特徴やダム作りについて、大事な言葉や事柄の順序に気をつけて、正しく読み取ることをねらう説明文である。

本文は、木を切り倒すビーバー、切った木を川へ運ぶビーバー、ダム作りをするビーバー、巣を作るビーバーの知恵の4つの意味段落からなる分かりやすい構成になっている。写真や挿絵と本文を結びつけながら読み進め、大事な言葉や文章を書き抜き順序に気をつけて正しく読み取っていく。その後は、大事な言葉を探しながら読む力を生かして、クイズの問題を作ったり、答えを本から探すという活動につなげる。

2年生になってから説明文教材は3回目である。この時期の児童は、図書室の本などにも多くふれている。教材文を読んだり、またはクイズや本を作る過程でたくさんの本を読んだりすることを通して情報を得、知的好奇心が満たされる喜びを感じることができると思う。段階的にみても、文章を読む力はもちろん、加えて情報を収集・活用する力を身に付けさせたい。多くの情報を集め、選択する力の基礎を養い「言語活用力」を育てていきたい。

4 単元の指導目標（観点別評価規準）

(1) 単元の目標

- 大事な言葉を探しながら、どこになにが書いてあるのかを読み取る。
- 順序に気をつけて、ビーバーの大工事の様子を読み取る。

(2) 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
国語への 関心・意欲・態度	○動物の生態に興味を持ち、進んで本を読んで調べようとしている。
話す・聞く能力	○書いたクイズや解答を読み合い、感想を伝え合っている。 ○姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりとした発音で話そうとしている。
書く能力	○動物のひみつについて、様子が分かるようにふさわしい言葉を選んで文章を書いている。
読む能力	○順序に気をつけて読み、書かれている内容を正しく読み取っている。 ○知りたいことに関係のある大事な言葉を見つけながら読んでいる。 ○クイズを作るために、動物や昆虫の生態について説明しようとした本を読んでいる。
言語についての 知識・理解・技能	◎主語と述語の関係が分かる。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」の中で正しく使おうとしている。

(3) 学習指導計画と評価計画 (全15時間)

読む8時間

書く7時間

時	学習計画	評価規準 (評価方法)	A 十分満足できる	C 努力を要する個への指導の手立て
	事前テスト			
第一次	1 ○「ビーバーの大工事」を読んで初発の感想を書く。(書く) ○新出漢字と読み替えの漢字を学習する。(言語)	・教材文に興味を持ち、感想を書いている。 (観察・発言・ノート)	・初めて知ったことや不思議なこと、もっと知りたいことを意欲的に書いている。	・友だちの感想を参考にしたり文中の言葉や数字、絵や写を手がかりにして書かせる。
	2 ○挿絵を参考に、全文を大きく4つにまとめ、学習の見通しを持つ。(読む)	・内容をとらえ、4つのまとまりを大まかに捉えることができる。 (観察・発言・ノート)	・大体を捉え、4つのまとまりから読みのめあてを捉えることができる。	・大きなまとまりや挿絵や初発の感想から4つの読みのめあてを捉える。
第二次	3 ○ビーバーが木をかじって倒す様子を読み取る。(読む)	・叙述に沿って様子を読み取っている。 (観察・発言・ノート・ワークシート)	・叙述に沿って書き抜き、様子を読み取ることができる。	・挿絵や具体物を手がかりに読み取らせる。
	4 ○切り倒した木を運んでいくビーバーの様子を読み取る。(読む)	・叙述に沿って様子を読み取っている (観察・発言・ノート・ワークシート)	・叙述に沿って書き抜き、様子を読み取ることができる。	・挿絵を手がかりに確認しながら読み取らせる。
	5 ○ビーバーがダムを作る様子を読み取る。(読む)	・叙述に沿って様子を読み取っている。 (観察・発言・ノート・ワークシート)	・叙述に沿って書き抜き、ダムを作る様子を読み取ることができる。	・挿絵や数量を表す語句は動作化やたとえで気づかせながら読ませる。
	6 ○安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取る。(読む)	・叙述をもとに、安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取っている。 (観察・発言・ノート・ワークシート)	・叙述をもとに、巣の仕組みが分かり、さらにビーバーの知恵を読み取ることができる。	・挿絵を手がかりにした絵を描かせることでビーバーの知恵にも気づかせる。
	7 ○「ビーバーの大工事」を学習して読み取ったことをもとに、分かったことを書く。(書く)	・教材文から読み取ったことについての感想文章に書いている。 (観察・発言・ノート)	・分かったことや感想を意欲的に書いている。	・友だちの感想を参考にしたり文中の言葉や数字・挿絵を見ながら書かせる。
	8 ○ビーバーのひみつについてのクイズを作る。(書く)	・教材文から読み取ったことをもとにクイズの問題と答えを考えて、書いている (観察・発言・クイズシート)	・ひみつを教材文をもとに探して調べ、クイズの問題と答えを書いている。	・教師や友達の手助けを受けながらクイズの問題と答えを書いている。
第三次	9 ○どんな動物について調べたいか考え、本の探し方を知る。動物と本の選定。(関・意・態)	・興味のある動物を選び、本で調べるといふ活動に意的に取り組もうとしている。 (観察・発言)	・興味・関心を持った動物について書かれた本を探し、楽しんで読んでいる。	・「本コーナー」や「本のリスト」から紹介された本を選んで読んでいる。
	10 ○興味を持った動物について、その動物のひみつを本で探して調べる。(読む)	・クイズを作るための動物に関する本を読み、調べたことを書き出している。 (観察・ワークシート)	・ひみつを本をもとに探して調べ、付箋紙を貼ったり書き込んだりして、他の児童と交流することができる。	・ひみつを教師と共に本で調べ、教師や友達の手助けを受けながら、付箋紙を貼ることができる。
	11 ○本で調べたこと(集めた情報)をもとにし「どうぶつひみつクイズ」を作る。(書く)	・集めた情報をもとに、クイズの問題と答えを考えて書いている。 (カード・ワークシート)	・意欲的にクイズの問題と答えを考えて書くことができる。	・クイズの形や大事な言葉お助け言葉を手がかりにクイズと答えを書いている。
	12 ○「どうぶつひみつ大会」を開き、調べたことを交流する。(話す・聞く)	・クイズのどこに何が書いてあるかを考えて、答えの部分を読み取っている。	・正解が本のどこに書いてあるかを考えたり正しく読み取ることができ、感想を伝え合	・正解を探す作業を、教師や友達の手助けを受けながら進め、友達と交流をしている。
	13 ○「どうぶつひみつ大会」を開き、調べたことを交流する。(話す・聞く)	・書いたクイズや解答を読み合い、感想を伝え合っている。 (観察)	・正解が本のどこに書いてあるかを考えたり正しく読み取ることができ、感想を伝え合	・正解を探す作業を、教師や友達の手助けを受けながら進め、友達と交流をしている。

5 本時の学習 (10 /15)

(1) 本時のねらい

興味を持った動物について、その動物のひみつを本で探して調べることができる。

(2) 本時の授業仮説

- ① 主語と述語の関係をしっかり押さえ、本文と写真と絵を結びつけることで、正しく文意を読み取るができるであろう。
- ② 読み取りの学習を生かして様々な本や資料で調べることで、分かったことを付箋紙に書き出し、情報を交流することができるであろう。

(3) 本時の展開

準備 ワークシート、付箋紙、動物の本・図鑑

段階	学習活動	○教師の支援と 指導上の留意点	■ 授業仮説の検証 ◇本時の評価 (評価方法)
導入	1 新出漢字と読み替えの漢字を理解する。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> めあて どうぶつのひみつをさがって、わかったことを書こう。 </div>	○フラッシュカードを提示しながら漢字を練習する。	
展開	3 進め方を知り、動物のひみつを調べる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> しらべるひみつ れい ① すんでいるばしょ ② たべもの ③ おもしろいくせ ④ すぐれたとくちょう ⑤ 体のしくみ </div> 4 2～5人のグループで作業に入る。  5 本や図鑑から調べて分かったことを付箋紙に書き出しワークシートに貼る。  6 調べたひみつをグループで発表し合う。	○板書 (ワークシート) をもとに進め方の確認をする。 ・同じ動物を選んだ人同士グループを作る。 ・クイズを作る際に参考にした「ひみつをさがる だいじなことば」も黒板に掲示する。 ○調べて分かったことを付箋紙に書き出させ、それがクイズを作るための材料となることを伝える。 ・調べながら付箋紙を貼ったりページをメモしてもよい。 ・グループ間で本を交換しながら 読み合ってもよい。 ○見つけたひみつは、付箋紙に書き出させる。 ・内容をすべて拾うのではなく、興味・関心を持った情報を集めてくようにさせる。 ○机間支援をしながら、作業の進捗を確認し、必要に応じてアドバイスをする。 ○自分と友達のひみつを比べたりして、交流させる。	■主語と述語の関係をしっかり押さえ、本文と写真と絵を結びつけて、正しく文意を読み取ることができる。 ◇クイズを作るための動物に関する本を読み、調べたことを書き出している。 ■読み取りの学習を生かして、様々な本や資料で調べて分かったことを付箋紙に書き出し、情報を交流することができる。
まとめ	7 学習を振り返る。	○ひみつが書けた人の中から、何人が発表させる。 ○次時の予告をし、これからの学習への意欲づけをする。	

6 授業仮説の検証

本時の授業仮説について、学級全体の評価をもとに考察する。表6は、検証授業における児童のワークートの記述や授業観察からの評価である。

表6 学級全体の評価

検証場面	検証の観点	評価基準			検証方法	検証結果 AB合計
		A 十分満足	B 満足	C やや努力が必要		
文意の読み取り	(1) 順序に気をつけて読み、書かれている内容を正しく読み取っていたか。	主語、述語の関係が押さえられていて、文意を読み取ることができる。	主語、述語の関係を押さえることか文意を読み取ることのどちらかができている。	主語、述語の関係が分からず、文意も読み取ることができない。	・授業観察 ・ワークシート	100 % 25 人
	結果	92% (23 人)	8% (2 人)	0% (0 人)		
情報を見つけ書き出す	(2) 知りたいことに関係のある大事な言葉を見つけながら読んでいたか。	興味を持った動物のひみつを、「調べる観点」をもとに見つけ書き出すことができる。 (5個以上)	興味を持った動物のひみつを、「調べる観点」をもとに見つけ書き出すことができる。 (1～4個)	興味を持った動物のひみつを、「調べる観点」をもとに見つけ書き出すことができない。	・授業観察 ・ワークシート	100% 25 人
	結果	68% (17 人)	32% (8 人)	0% (0 人)		

(1) 授業仮説①について

主語と述語の関係をしっかり押さえ、本文と写真と絵を結び付けて、正しく文意を読み取ることができたか。

本時に至るまでに「ビーバーの大工事」の教材文を4つの場面に分け、ビーバーの生態や知恵の読み取り方の学習をしながら主語と述語の関係も学習してきた。また、読み取りの学習後は「ビーバーのひみつクイズ大会」を行い、「ひみつをさぐるだいじな言葉」を提示しクイズ作りへとつなげていった。

本時では、動物の本や図鑑を手元に、初めて目にするたくさんの情報内容を「動物のひみつをさぐる」という観点で読み取らせた。ワークシートから100%(ABの合計)の児童が「主語、述語の関係」や「本文の文意」に着目しながら、書かれている内容を読み取ることができた。教材の指導事項の中に「擬声語・擬態語を押さえ、比喩表現が分かる」という観点があるが、その観点から本や図鑑から情報を書き出している児童が10人いた。「動物のひみつをさぐる観点」を提示したことで、付箋紙を使って本や図鑑に貼り、内容に着目することができたといえる。

(2) 授業仮説②について

読み取りの学習を生かして、様々な本や資料で調べて分かったことを付箋紙に書き出し、情報を交流することができたか。

「動物のひみつをさぐる観点」を提示し付箋紙を使って本や図鑑に貼る作業後、内容に着目し情報を書き出す作業にも個人差が見られた。表の結果から、興味を持った動物のひみつを、「さぐる観点」をもとに付箋紙に書き出すことができた(5個以上)児童は68%であった。また、本や図鑑に付箋紙を貼り出したにもかかわらず、書き出す作業で何を書いているのか分からず、躊躇している児童も数名いたが、教師・友達の手助けで自力で書き出す作業ができた。

児童のワークシートから100%(ABの合計)の児童が情報を見つけ書き出すことができ、付箋紙を貼りながら読み取りの学習をしたことで、多くの情報を見つけ、さらにグループ内で交流したことから、何をどう書き出すのか意欲をもって調べることができたといえる。

V 研究の結果と考察

- 1 **検証仮説①** 大事な言葉と説明の順に注意して教材文を読み、読み取り方を学習することは、読みの力を育てることに有効であったか。

(1) 読み取りのワークシート4つ場面の結果から

単元3時目から6時目まで、読み取りの学習を進めていく中で、自作のワークシートで内容を理解した。「順序に気をつけて読み、書かれている内容を正しく読み取る」「知りたいことに関係のある大事な言葉を見つけながら読んでいく」を意としてワークシートは作成した。毎時間、ワークシートの正答率(図5)を確認したところ、どの時間も90%以上の児童が正答していることから、教材文を読み取ることができたと捉える。意欲的に取り組んだ結果だといえる。

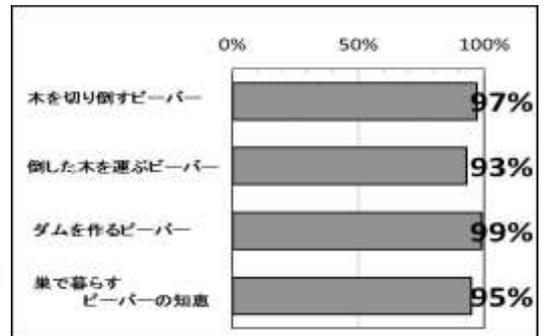


図5 場面ごと読み取りワークシート正答率

(2) 事前・事後のテスト結果から

授業の事前事後に、力だめしテストを実施した。順序に気をつけて読む問題については、事前テストの段階では正答率が73%であったが、事後テストで85%であった。大事な事柄を読み取る学習では、事前テストでは81%、事後テストでは93%であった。(図6)「ビーバーの大工事」において、読み取るための活動で、教科書にサイドラインを引かせたり、書き込んだり、ノートに書き込みや書き抜きをさせる学習をしたことで、知りたい情報を取り出すことができたからだと考える。

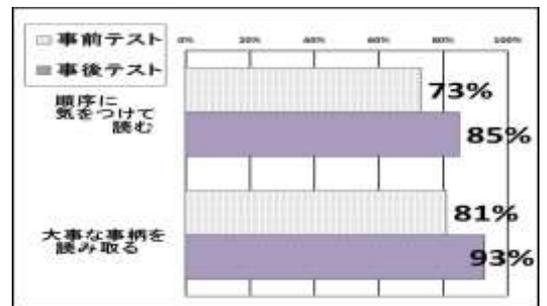


図6 力だめしテスト

言葉のきまりについての主語テストは、事前テストでは39%と正答率が低いが、事後テストでは94%と大幅な伸びが見られた。述語テストは、事前テストでは40%で事後テストは72%の正答率であった。(図7)

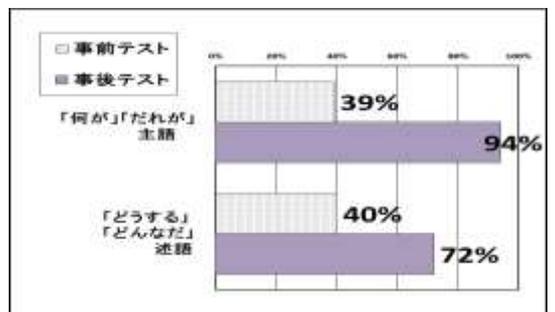


図7 主語・述語テスト

(3) 「ビーバーの大工事」学習前と学習後の感想から読みの深まりを評価



資料1 学習前



資料2 初発の感想から読みを深める



資料3 学習後

単元1時目の初発の感想(資料1)をもとに、児童の感想を3つに分けて掲示した。「不思議に思ったこと」「もっと知りたいこと」「調べてみたいこと(ノートより)」を学習の課題(資料2)としてあげた。読み取りの学習を進めながら、自分の課題が解決した児童もいて、付箋紙で感想を貼らせたりした。読み取りの学習が進むにつれて読みが深まっていった(資料3)と考える。

2 検証仮説② 興味をもったことを読み取りの学習を生かして、様々な本や資料で調べたことは、情報を収集したり活用したりする力を育てることに有効であったか。

(1) 読み取りの学習を通して

読み取りの学習後、ビーバーのひみつについて、クイズを作る学習をした。教材文を読み取り、クイズの形(文型)やひみつを探る大事な言葉を提示(資料4)することでビーバーのひみつについてのクイズを作成することができる考えた。

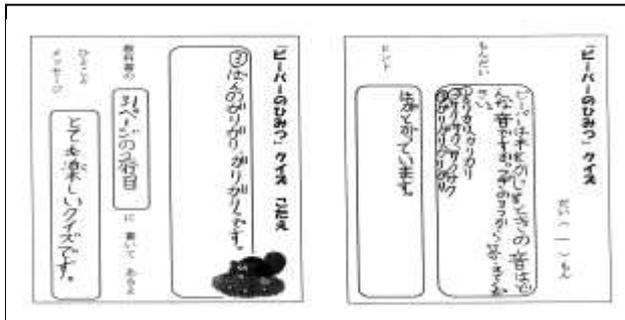
まず、クイズの作り方の手順としてクイズの形は、①②③共に、主語・述語の関係に注意した問題文になるように提示した。

「ひみつをさぐるだいじなことば」は答えにつながるの、教材文のサイドラインを読み返させたりしてクイズを考えさせた。

資料5, 6の児童のワークシートは、クイズの型②③である。どの情報が必要(収集)で、どう表現(活用)するのか考えながらクイズを作成し、答えを探すときにも、その情報が何ページの何行目に書いてあるのか見つけることができた。

ひみつをさぐるだいじなことば	クイズの型 ①くはくでしようか。 ②くはくでしようか。つぎの三つからえらびましよう。 ③くはくである。○でしようか。×でしようか。
○数字 ○ぼしょ ○食べ物 ○体の作り ○時間(いつ) ○動きやくせ ○す作り ○そだて方 ○てき ○音・鳴き声など	
クイズにつかうお助けことば	
○どのくらいの長さ ○どのくらいの高さ ○どこ・どんな国 ○何 ○どんな形 ○どのくらいの時間 ○いつ ○どうやって ○どんな音・声 ○どんなじゆんばん ○なぜ・どうしてなど	

資料4 クイズの型やキーワードを提示



資料5 クイズ②型



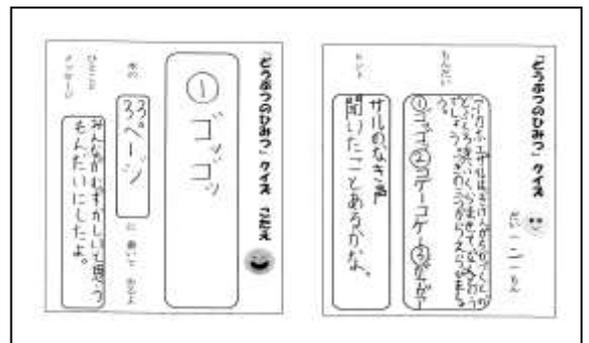
資料6 クイズ③型

(2) 読み取りの学習を生かして

この研究は、説明的な文章の学習を通して、読む力を生かして言語活用力を高める学習指導の工夫について示し、小学校国語科の学習指導の改善に役立てようとするものであった。

「動物のひみつクイズ」作成に向けては、どんな動物について調べたいか考え、調べるための本や図鑑を「動物の本コーナー」や「本のリスト」を利用しながら自分で選んでいった。本時の検証授業で、本や図鑑から情報を収集する作業を行ったが、どの児童も「ビーバーの大工事」で行った学習が土台となり「動物のひみつクイズ」に向けても意欲的で活動がスムーズであった。その結果、資料7のようなクイズを多種多様作成することができた。資料8の写真はクイズ大会で、友達が作ったクイズの答えを探している場面である。

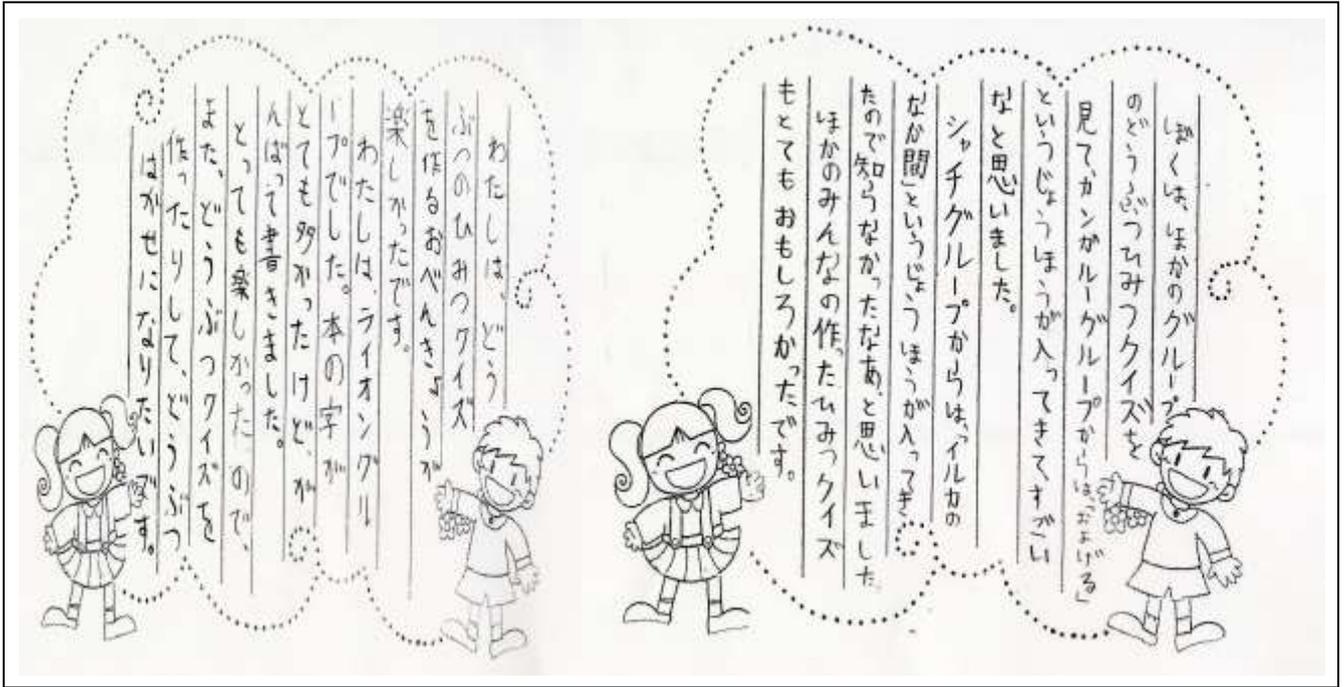
説明文の読み取りの学習を生かして、本や資料で調べたことは、情報を収集・活用する力を育てることに有効に働いたものだと考える。(資料9)



資料7 動物のひみつクイズ



資料8 動物のクイズの答えを本から探している児童



資料9 動物のひみつクイズ大会後の児童の感想

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 説明的な文章の学習において、大事な言葉と説明の順に注意して、読み取り方の学習指導の工夫をしたことは、読む力を育てることに効果があった(IV 6—(1), V—1)。
- (2) 読み取り方の学習を生かして、様々な本や資料で調べたことは、今読んでいる文字列が自分の目的にとって必要な情報かどうか考えながら読み、どの情報が必要(収集力)でどう表現(活用力)するのかを考えることで言語活用力が高まることに有効であった(IV 6—(2), V—2)。

2 今後の課題

- (1) 国語科の読むことの学年に応じた内容は、見通しをもった系統的な指導が必要である(V—1)。
- (2) 読む力を生かした言語活用力を高める学習指導は、継続的に指導していく必要がある(V—2)。

〈主な参考文献〉

文部科学省	『小学校学習指導要領解説 国語編』	東洋館出版社	2008年
瀬川榮志監 金久慎一編	『言語活用力を高める説明文の指導』	明治図書	2010年
瀬川榮志編	『これだけは身に付けたい国語科基本用語』	明治図書	2007年
白石範孝編 八戸立下長小学校 著	『単元構成の工夫で活用力を育てる』	東洋館出版社	2010年
桂 聖編・佐々木憲徳 著	『国語科授業の基本技術』	東洋館出版社	2012年
植松雅美監修 井上善弘編	『小学校 言語活動の授業をつくる』	学事出版	2009年
今井成司・山本瑠香編	『国語—教科書教材の読みを深める言語活動』	本の泉社	2012年
国語教育 2009 2月号	『いま「読み取る力」向上に集中しよう』	明治図書	2009年
小柳政文	『「読む力」を高める国語科学習指導の研究』資料		2013年
佐藤善威	『ビーバーの大工事』名取市那智が丘小学校資料		2005年